

事業所長による保安に関する意見交換会

石油化学工業協会

「経営層の保安への関与の強化」として、現場に最も近い経営層である事業所長による保安に関する第7回意見交換会を、安全工学会と共催で、九州地区にて下記の通り行った。

記

1. 日時：2019年2月6日（水）14：00－17：00
2. 場所：三井化学株式会社・大牟田工場 本事務所会議室
3. 目的：保安の向上に日々努力している事業所のトップにお集まりいただき、企業の壁を越えて保安に関する意見交換を図ることで相互レベルアップを図る。
4. 参加者：
 - (1) 企業 旭化成株式会社・延岡支社；友清次長
昭和電工株式会社・大分コンビナート；長井代表
住友化学株式会社・大分工場；長田工場長
デンカ株式会社・大牟田工場；加賀次長、那須部長
日鉄ケミカル&マテリアル株式会社・九州製造所；中山所長
三井化学株式会社・大牟田工場；裾分工場長
三菱ケミカル株式会社・黒崎事業所；辻川所長
JNC株式会社・水俣製造所；庄司所長
 - (2) 安全工学会 三宅副会長（横浜国立大学教授）、湯本事務局長（本会議事務局）
 - (3) 石油化学工業協会
保安衛生委員会；綱島委員長（三井化学）
保安衛生小委員会；岩永委員長（三井化学）、
三井化学大牟田工場関係者（岡田部長、小柳GL）
志村専務理事、藤本技術部長（本会議事務局）
5. 討議
出席者紹介の後、綱島委員長の司会によりトップコミットメントについての意見交換から始まり、技術伝承・教育・新たな技術導入・働き方改革等への取組みに進んだ。
 - (1) トップコミットメント
様々な工夫を凝らして「安全最優先」の明確な発信と現場への浸透を目指している。
 - ・トップメッセージ：経営面からも安全が重要、安全対策への投資の重要性
 - ・経営トップの意思が最前線社員に伝わるのが重要
 - ・社長や事業所長が現場（特に中間管理職である現場課長層）と直接対話

(2) 工場運営の施策

所内コミュニケーション重視及びトップダウンとボトムアップのバランス重視

① 安全活動のあり方

- ・管理者と現場とのコミュニケーションの重要性認識
- ・中間管理職（現場課長）層が上層に改善策を自由に提言できる組織風土
- ・現場におけるオーバールール削減検討（中長期的な活動持続性に配慮）
- ・安全文化醸成には、仕組み構築後、個々人のやる気スイッチを入れる仕掛けも重要

② 労働災害防止への取組み

- ・基本行動の浸透と確実な実行
- ・昨今労災が多い工事業者への安全教育体制や手法が課題（特にスポット業者）
- ・委託元の事業所社員自身の安全への感受性の更なる向上

(3) 技術伝承・人材育成

各層（管理職、エンジニア、運転員）の教育と要員不足（協力会社も含む）における多様な課題に取り組んでいる。

- ・技術伝承や人材育成にはコストがかかる点を全社内でも共有化する。
- ・技術と安全の両面において習熟したリーダーたる課長層の育成には時間がかかる。
- ・人材育成と働き方改革の両立が課題
- ・教育専任者としてのシニア、OBの活用
- ・工事関連協力会社員の教育

(4) 保安への新技術導入

各社とも社内に推進組織を設け I o T、A I 等の新技術の活用、評価を進めている。

- ・本社や事業所に関連組織設置。社内での検討報告会等を開催。
- ・A I 利用した品質の検査、予測の検討開始
- ・各種センサー、画像処理手法等を導入し効果検討中
- ・防爆タブレットを導入し、現場と事務所間の行き来回数削減
- ・個人監視デバイスの導入（交代勤務員全員の状況把握し緊急時に救援可能）
- ・社員教育：データ処理統計学、品質工学等。

(4) 働き方改革

定修時対応及び定常業務対応で様々な対策・工夫に取り組んでいる。

① 定修時対応

- ・工事業者と共に課題抽出と対策を検討（着工許可までの時間短縮方法等）
- ・定修期間の延長（販売&生産計画の工夫、完全休日の設定等）
- ・工場内の各プラントの定修を年間に分散させて業務量を平準化

② 定常業務対応

- ・若手の早期育成をして個々人の業務負担軽減を目指す。
- ・女性の活用：三交代勤務にも従事。家族転勤時の配慮。
- ・現場作業の自動化、省力化の工夫（女性、高齢者の作業負担低減、熱中症対策）

以上